

### 第① 候補（現地建替え）

#### メリット

- ・建設工事が体育館・管理棟一体で進めることができ、建築工事と外構工事を一部同時に行うことで工事工期が31か月程度で建設可能
- ・公園の整備は行うが、施設、駐車場の見晴公園への入り込みはほぼない
- ・プール棟との連携として工事期間中にプールの改修工事が行える
- ・老朽化したプール更衣室を体育館シャワー室と一体整備が可能

#### デメリット

- ・工事期間中（28か月）の体育館及びプールの利用は不可
- ・新築後も外構整備が残るため、4か月間は駐車場の半分程度が使用できない
- ・駐車場の確保は約73台となる

### 第② 候補（見晴公園建設＋現体育館土地の代替公園化）

#### メリット

- ・工事場所に自由度があり、現体育館を運営しながら建設工事と外構工事を同時に行うことができる
- ・公園内に建設するが、同規模の公園を整備し、緑地は維持される。

#### デメリット

- ・駐車場の確保は約87台となる
- ・緑地の増減をなくすることから、1F面積は小さくなり、全体面積も少なくする必要はある。（3245㎡→2179㎡）

### 第③ 候補（見晴公園一部使用＋既存体育館跡地駐車場化）

#### メリット

- ・現体育館を運営しながら建設工事と外構工事を分けて行うことができる

#### デメリット

- ・アリーナ棟と管理棟を前期・後期に分けて建てる必要があるため、その分工期が延び、40か月程度かかる
- ・新築後も既存解体と外構整備が残るため、10か月アクセスする通路に制約がある。
- ・見晴公園への入り込みは25%程度ある
- ・プールは、18か月間は、利用不可となる
- ・駐車場の確保は約104台となる
- ・工事期間中の現体育館アクセスはスロープからのみとなり、駐車場部分の利用が制限される